

第2回千葉県国土利用計画地方審議会調査検討部会 議事概要

1 日 時 平成21年4月10日(金) 午後1時30分～4時00分

2 場 所 きぼーる 13階 第1会議室
(千葉市中央区中央4-5-1)

3 出席者(委員)

高橋(洋)部会長、親泊委員、佐藤委員、山田(多)委員、山田(利)委員

4 議 事

1) 開 会

2) 議 事

県土利用のモニタリング制度及び計画評価制度について

- ・事務局より評価シートの構成や県の考え方などについて説明し、意見交換を行った。
- ・次回以降も、引き続き、意見交換を行うこととした。

3) 閉 会

4) 主な発言内容(順不同)

土地利用主体の行動に影響を与える要因は何か、何故そういう土地利用になっているか、問題が発生しているか、その解決方法は何か、という流れを整理してほしい。

(部会長)

課題と解決の因果関係が解る指標を整理してほしい。いたずらに指標・統計がたくさんあっても、出てきた結果の分析が困難になるかもしれない。

土地利用主体に影響を及ぼす経済性の観点が評価シートに入っていると良い。

誰が、何を、どの様に、何時モニターするのか、はっきりとした位置づけを整理してほしい。

農用地、森林面積については、適法手続きの許可面積などの増減で見ていると、現況と不釣り合いが生じる可能性があるので、課税地目や航空写真との突合せの必要性が生じるのではないか。

モニターをする際に、土地利用の課題に対応する解決策に係る指標をモニターするのか、現状の土地利用をモニターするのか教えてほしい。

(事務局)

モニタリングの対象としては、「現状」・「解決策」の両方について検討する必要があると考えている。これから整理していきたい。

県の特徴に応じて、モニターに強弱を付けても良いのではないか。

総合的なモニタリングも大切だが、県の土地利用に係る重点的な取り組みなど、緊急性を要するものに関してメリハリがあっても良いのではないか。

の農用地のシートの「市街化区域内農地の保全活用」とは、農地を残すということか、宅地として活用するということが、どちらか。

(事務局)

国土利用計画(P42)に記載があるとおり、特に宅地にするということではなく、農地として活用していきたい。

森林のシートの課題の文章表現が、他のシートと比較してネガティブな内容となっているので、表現は揃えた方が良い。

(部会長)

農用地の文章表現の「保全」、「安定化」に対して、森林は「減少」、「不十分」になっている。表現を揃えることは可能なのか。

(事務局)

課題の趣旨が合致していれば、文章表現の差異は問題ないと思う。

(森林であった場所の)山砂採取跡地は森林に戻すことが前提となっているが、跡地に木を植えても、森林が回復するとは限らない。開発は、動植物の生態系に影響を与えるので、生物の生息状況や水源の状態を把握する指標が取れば良いと思う。

(部会長)

土地利用の課題として、植物などが対象となるのか、背景・原因となるのか。事務局は、評価の指標として動植物は考慮に入れているのか。

(事務局)

国土利用計画に係る評価指標なので、土地利用及び土地利用に関係した周辺の指標としたいと考えている。

自然公園はどのように扱うのか。

(事務局)

自然公園は、「森林」や必要に応じて「その他」「原野」のシートの中で扱っていききたいと考えている。

森林の多面的機能の増進に関する課題を記載してはいいかがか。森林資源の安定化を課題として、森林資源としての量と質の両面で指標があれば良いと思う。

各シートの課題の背景を短文などで解りやすく書いていかなければいけない。いきなり、解決策・モニタリング指標が出てきても、評価できないのではないか。

plan(計画) monitor(看視) manage(行為)というように、現状と評価をスッキリと書いた方がわかりやすい。

(事務局)

各シートの課題・概況分析を最初に示して、現状を踏まえた解決策をシートに落としてモニターしていくといったご意見について検討したい。

シートの構成として、one、two、three のリズムで整理した方が、頭に情報が入りやすい。

市街化調整区域における住宅開発の抑制については、今年くらいから指導要綱や条例を厳しくして、開発を抑制する市町村が出始めている。こうした市町村にヒアリングやアンケート調査を行ったら良いのではないか。

千葉県の里山や風景、文化財的な家屋、歴史的な遺産などの景観を維持・保全するためには、こういったモニターの仕方では出来ないのではないか。

(部会長)

国土利用計画によって、県の施策全般をカバーするような指標・解決策を提案することは出来ないと考えている。ここでは、6つに分類した土地利用をキチンとモニターしていくことを踏まえて議論すべきではないか。さらに、この計画は10年続く計画なので、徐々に必要な評価項目も増えてくると考えられる。はじめは出来ることから進めたら如何かと思う。

県民のための県土利用を考えていくべきであり、千葉県がどのようなイメージの県なのかを念頭に置いて評価制度を設計していけば、千葉県のカラーが鮮明になるのではないか。

農村・里山生活の成立が困難となっていることが解る指標が大事なのではないか。

国土利用計画で講じられている内容を中心に、課題に対するストーリーを作っていくと突破口ができるのではないか。

アンケートの手法についても、対象が一般県民、NPO、事業団体など、委嘱できる策の候補を整理し、場合によってはモニターの対象とするなど、様々な手法がある。

まずは、評価シートに指標を埋めていってから考えていった方がよいのではないか。

計画における現状をモニターするだけでなく、解決策の有効性についてもモニターするという遠大な手法となる。

今回は、今回提示があった指標の他に、航空写真などによるミクロ的な評価ができる指標も含まれるのか。例えば課税目的で航空写真を撮っていると思うが、指標として活用できないか。

(事務局)

航空写真を保管している県セクションがあるかもしれないが、把握していない。

(部会長)

県全体を航空写真でみようとすると、大変な労力が必要となるのではないか。

モニタリング指標の選定については、各部・各課の協力を得て進めていただきたい。

委員としては、県が保有するデータの種類や指標として取得可能な範囲がわからないので、指標の候補は示してほしい。

以上